

— 地域でつながる —

ワカモノ×NPO インターンシッププログラム

2024

活動報告書



認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構





ワカモノ×NPO インターンシッププログラム

はじめに

本報告書は、高校生から大学院生(30歳未満)を対象とした「地域でつながるワカモノ×NPO インターンシッププログラム」において、約半年間にわたる NPO・市民活動団体での現場体験を通して、インターン生(本プログラムでは「ワカモノ」と呼んでいます。以下、「ワカモノ」)が得た学びと成長の軌跡をまとめたものです。

ワカモノたちは、団体での活動や同期との交流を通して、地域のさまざまな課題、そして自分自身の課題にも向き合いながら、貴重な経験を積んできました。

今年度のプログラムは、「自分史上最高の〇〇を見つける」をテーマに実施しました。ここでいう「〇〇」とは、心から好きだと思えることかもしれません。あるいは、自分でも驚くほど得意だったこと、あるいは初めて本気で取り組んだ経験かもしれません。

そのカタチは人それぞれですが、このプログラムがワカモノにとってこれからの未来を切り拓く「きっかけ」や「原動力」になることを願っています。

本報告書では、ワカモノ一人ひとりの成長ストーリーを通して、彼ら彼女ら自身の未来、そして地域の未来につながる一歩を感じていただければ幸いです。

目次

- プログラムについて 1
- 運営体制/活動の事例 2
- 1年の流れ 3
- ワカモノの軌跡 4-13
- 成果発表会 14-15
- アンケート結果 16-17
- 先生方からのメッセージ 18
- おわりに~理事長からのメッセージ~ 19
- 協力者一覧 20



プログラムの目的

自ら考え、選ぶことができる力をつけた人材が育つこと

このプログラムは、高校生~大学院生までのワカモノが約半年間、地域のNPOでインターン生として活動します。2014年度より実施し、今年度はプログラム11年目を迎えました。

また、本プログラムでは、下記の3つを目的に活動しています。

- ①ワカモノが自ら考え、自ら学び、自分の道を選ぶことができる力を身につけること
- ②NPO・市民活動団体の組織基盤の強化
- ③プログラムを他地域に展開すること

プログラム概要

対象：①ワカモノ：高校生~大学院生
 ②神奈川県内で活動するNPO・市民活動団体

参加者：ワカモノ 9名
 受入団体 9団体

期間：2024年7月14日(日)~
 2025年2月28日(金)

活動場所：神奈川県内

費用：活動にかかる交通費や食費などは自己負担

プログラムの特徴

2つのコース

ワカモノコース
 60~100h
(定例会等の時間を含む)

高校生コース
 50~80h
(定例会等の時間を含む)

マッチングについて



成果発表会の企画



本プログラムには[ワカモノコース]と[高校生コース]があります。高校生コースは、活動と学校生活を両立できるように、活動時間を短く設定しています。また、継続して活動に取り組めるように、活動1時間あたり400円の助成を行います。

ワカモノ一人ひとりと個別面談を行い、ワカモノの興味関心や将来の目標などをヒアリングした上で活動先を決めていきます。

プログラムの集大成として受入団体、学校関係者、地域の方々などを招いてワカモノが活動を通して得たこと・成長したことなどを発表します。企画から当日の運営までをワカモノたちが主体となって行います。

サポートメンバー

本プログラムのOBOGによる有志のメンバーで構成されたサポートメンバー(以下、「サポメン」)。事務局と共にプログラムの企画・運営のサポートやワカモノの相談役など、活動をサポートします。



小島 奈々



金子 知史



酒井 彩良



中村 渚



山本 千晴



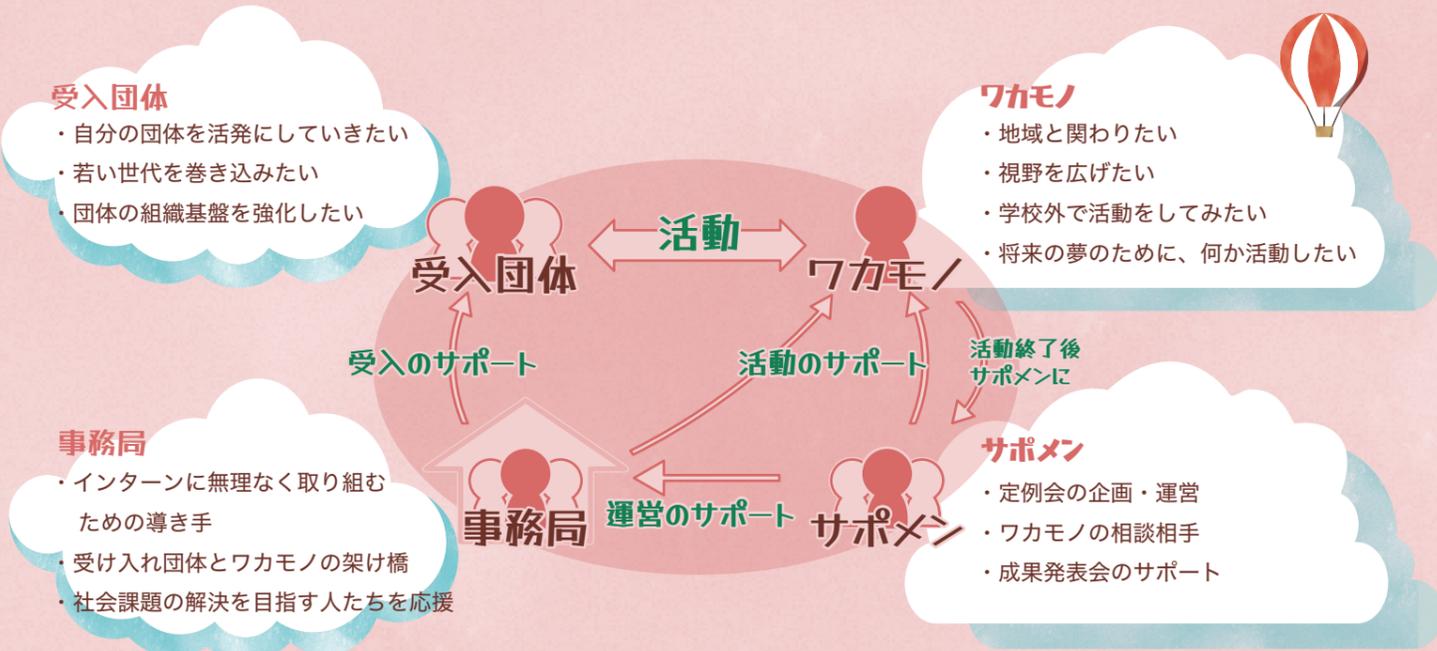
森田 哲平



相原 美月

運営体制

ここでは、ワカモノ・受入団体・サポメン・事務局の関係性と運営体制について紹介します。



受入団体

- ・自分の団体を活発にしていきたい
- ・若い世代を巻き込みたい
- ・団体の組織基盤を強化したい

ワカモノ

- ・地域と関わりたい
- ・視野を広げたい
- ・学校外で活動してみたい
- ・将来の夢のために、何か活動したい

事務局

- ・インターンに無理なく取り組むための導き手
- ・受け入れ団体とワカモノの架け橋
- ・社会課題の解決を目指す人たちに応援

サポメン

- ・定例会の企画・運営
- ・ワカモノの相談相手
- ・成果発表会のサポート

活動の事例

ここでは、ワカモノの活動事例を紹介していきます。活動の日程は各団体の受入担当者と相談して決めていただくので、自分の生活スタイルに合わせて無理なく活動できます。

夏休み集中型

全日制高校生
平日の授業が多い大学生

夏休み（約1ヶ月間）に集中して活動し、夏休み以外は平日・土日で不定期に活動する。

定期活動型

定時制・通信制高校生
授業やアルバイトが少ない大学生

毎週決まった曜日・時間帯に活動する。

すき間時間活動型

アルバイトなど掛け持ちの学生

1日の中の空いた時間を上手く使って活動する。

7月 ↓ 8月	5h×2回×4週=40h ※受入団体での活動 + ワカモノ定例会
9月 ↓ 2月	3h×1回×6ヶ月=18h ※受入団体での活動 + ワカモノ定例会・成果発表会

7月 ↓ 2月	〈高校生〉 2h×4週×8ヶ月=64h 〈大学生〉 3h×4週×8ヶ月=96h ※受入団体での活動 + ワカモノ定例会・成果発表会
---------------	---

7月 ↓ 2月	10h×8ヶ月=80h ※受入団体での活動 + ワカモノ定例会・成果発表会
---------------	--

※大学生は2時間分追加で活動をすると最低時間を達成できます。

1年の流れ

本ページでは、インターン活動の流れを紹介します。ワカモノはエントリーした後、個別面談を経て受入団体を確定し、7月より約半年間活動しました。

- 5月
団体エントリー
学校での説明会（～6月）
- 6月
ワカモノエントリー
- 7月
ワカモノと個別面談
活動先のマッチング
活動期間開始（～2月）
オリエンテーション
- 8月
第1回ワカモノ定例会
- 9月
第2回ワカモノ定例会
活動訪問（～12月）
- 10月
第3回ワカモノ定例会（中間発表会）
受入団体座談会
- 11月
第4回ワカモノ定例会
- 12月
第5回ワカモノ定例会
- 1月
第6回ワカモノ定例会
- 2月
成果発表会リハーサル
成果発表会
活動期間終了



インターン活動

事務局によるヒアリングを行い、挑戦したいことや興味のあること、スケジュール等を確認した上で、受入団体とのマッチングを行った後、約半年間のインターン活動が開始します。ワカモノは活動を行うごとに「活動記録票」を記入し、その日のことを振り返って次回への目標を立てました。



オリエンテーション

プログラム参加者全員での顔合わせを行いました。ワカモノはこれからのインターン活動に向けて目標設定をし、ワークでは目標を達成するための要素ややるべきこと等、全員が真剣に書き出していました。また、活動に臨む心構えについての説明や、参加者同士の交流をする時間もありました。



ワカモノ定例会

活動の目標達成に向けた進捗確認やワカモノ同士の交流等を目的に月に1度、定例会を行いました。サポメンからの挑戦状と題したワークなど、ゲーム感覚で楽しく行うものや、中間発表会、成果発表会に向けた話し合いなど様々でしたが、ワカモノたちが真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。



受入団体座談会

中間発表会后、受入団体の担当者による座談会を実施しました。受け入れ時の悩みや工夫、ノウハウを共有し、今後のボランティア受け入れがより円滑になることを目的に実施しました。議事録用に用意した模造紙に書ききれないほど多くの意見が出され、活発な議論が行われました。



活動訪問

受入団体で活動をするワカモノの様子を知るために、活動訪問を行いました。ワカモノのサポートはもちろんのこと、受入担当者のインターンの受入にあたっての悩みや課題を解決することも目的として実施しています。団体の一員として活動をするワカモノの姿はとても頼もしかったです。



成果発表会

活動の集大成となる成果発表会は、当日の発表内容、運営、企画等すべてワカモノ主体で行いました。当日はワカモノの発表の後、交流会としてビンゴを行いました。受入団体の方や学校の先生方、当プログラムの助成団体の方にもお越しいただき、盛大な会となりました。



ワカモノの軌跡

ここからは今年度プログラムに参加したワカモノたちを紹介していきます。

ワカモノたちが、どのような想いで本プログラムに参加し、活動を経てどんな成長をし、今後どんな自分になっていきたいのか、活動の様子とともに紹介します。



YAMASHITA SYOTARO

山下 正太郎

湘南一ツ星高等学院 1年生

活動中の目標 : 沢山のひとと話すこと・楽しむ心を持ち続けること

主な活動内容 : イベントのお手伝い、「トレカの学校」の定期開催（企画から当日の運営まで）

参加したきっかけ

元々、別のボランティア活動をしており、「まちづくり」に対して興味を持つようになりました。高校に進学し、「何か新しいことに挑戦したい」と思っていたところ、昨年度インターン活動をしていた先輩方に、「色々なことを経験できる」と勧めてもらい、興味があった「まちづくり」についても学べるとあって、参加を決めました。

成長につながったと思うこと

これまで、同年代の人や同じコミュニティの人としか関わりがありませんでした。しかし、この活動を通して、社会人の方やご年配の方、自分で企画した「トレカの学校」「トレカバトル」というイベントに参加してくれた子どもたちと沢山話すことができ、コミュニケーションを取ることへのハードルを下げることができました。

インターン開始時に立てた目標は「沢山のひとと話すこと」。達成できたと言い切れるほどではないものの、全力で活動に取り組んだ自分自身を褒めたいです。

今後について

来年度から参加しようと考えているボランティア活動があるので、今回のインターン活動を通して学んだ人との関わり方や得た気づきを活かしたいです。特に、地域をより良くするしようと活動する人や、意欲的に活動に参加する人など、たくさんの人とのつながりを持つことが出来たのは、自分にとって大きな力になりました。



団体紹介

認定 NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎



担当者：秦野 拓也さん

茅ヶ崎市南西部エリアのにぎわいとコミュニティ形成に向けて、地域資源を活かし、地域や世代をつなぐ交流の場や機会を提供中。2015年4月から交流スペース「まちスポ茅ヶ崎」の運営を始め、多世代の交流、食を通じたまちづくり、魅力ある景観の維持・継承などの活動に取り組んでいます。



ABUKAWA HINA
〔 虻川 陽菜 〕

湘南一ツ星高等学院 2年生

活動中の目標 : コミュニケーション能力のアップ

主な活動内容 : 動画の制作、YouTube を使用した広報

参加したきっかけ

学校の紹介でこのプログラムの存在自体は知っていて、プログラムに参加した先輩から話を聞いて少し興味を持ちました。また、ファイナンシャルプランナー（以後FP）などの資格を持っている父の影響や、私自身がお金に関する知識や仕事に興味があることから、自分の将来のためになることができたらよいと思って参加をしました。

成長につながったと思うこと

活動では、FP3級の学習をしながら、その内容を動画にして団体のチャンネルに投稿しました。当初の予定はハードだったので、受入担当の方と相談してスケジュールを調節しながら取り組みました。投稿できた動画は計7本。動画作成にはPowerPointを使用し、使い方を1から教えていただけて、とても勉強になりました。また、自分から積極的に質問したり、アイデアを提案できたことは良い経験でした。橋本さんは、インターン活動に関わる話以外にも、たくさん話をしたり、聞いてくれて、大人の方とのコミュニケーションの取り方についても成長できたと思います。

今後について

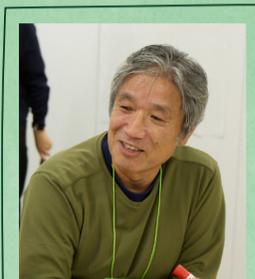
パソコンの使い方やコミュニケーションの取り方など今回学んだことはこれからもしっかり生かしていきたいと思っています。

また今後もボランティア活動などに触れる機会があったりしたら、より積極的に参加したいと思いました。どんなことにも屈しない行動力を持った人間を目指したいです。



団体紹介

NPO法人 湘南FP相談室



担当者：橋本 孝さん

藤沢を中心とした湘南地区を活動拠点とし、地域の皆様の「お金のかかりつけ医」として少しでもお役に立ちたいとの趣旨で設立しました。進学、就職、結婚、出産、老後など人生のいろいろな場面でお金に関する「困った」が起きた時、少しでもお役に立てる、頼りになる専門家集団でありたいと思っています。



KASUGAI MIHO
〔 春日井 美保 〕

湘南一ツ星高等学院 2年生

活動中の目標 : 団体の広報活動を通して将来の夢である学芸員の仕事への理解を深めること

主な活動内容 : イベントの企画、イベントスタッフ、コラムの執筆など

参加したきっかけ

普通の高校生活では経験しないような新しいことに挑戦することによって、自分の視野や可能性を広げたいと考えていたため、このプログラムに参加することを決めました。

成長につながったと思うこと

広報活動を通じて、将来の夢である学芸員の仕事への理解を深めることができました。

イベントの企画やコラムの執筆で、作り手側の視点を得たことは、新しい発見であり、大きな成長につながりました。特に藤沢市民まつりのブース出店の企画を1から考えた際にはトライアンドエラーの精神で自分なりに必死に取り組んだことはいい思い出です。

藤沢市民まつりの当日、自分の考えたゲームに多くの人を楽しそうに参加してくれて、とても嬉しかったです。また、企画を円滑に進めるためのコミュニケーション能力も身につけることができましたと思います。

今後について

今回の活動では、これからの人生で普遍的に役立つ経験ができました。特に、将来学芸員として働くことを目指す中で、広報活動やイベント企画の経験は大きな糧となりました。この活動で学んだことを、さまざまな場面で活かしていきたいです。



団体紹介

おととき♪



担当者：佐久間 恭子さん

地域と音大生（卒業生含む）をつなぐことを通じて、地域で音大生や若手演奏家が活躍する社会を目指しています。主な活動は、自主公演の企画運営、学童等での訪問演奏、地域イベントへの参加です。イベントの実施に合わせ、集まれるメンバーが協力して活動しています。藤沢を中心に各地で活動中です。



SHIBAYAMA HAYATO

芝山 颯人

湘南一ツ星高等学院 2年生

活動中の目標 : 多人数の前で緊張せずに話せるようになる

主な活動内容 : ライブ配信イベント、映像制作のワークショップなどのサポート

参加したきっかけ

「いろいろなことを経験したい!」と思って、高校1年生の頃から、さまざまなボランティアに参加していました。でも、もっと何か大きなことに挑戦してみたいと思い、同級生が参加していたこのプログラムに参加しようと思いました。

成長につながったと思うこと

まず、普段行くことができない環境で活動することができて楽しかったです。機材の使い方や映像制作について教わったりして、はじめて経験することばかりでした。

団体の事務所で配信のお手伝いをしたり、学童に行き子どもたちと動画を一緒につくったりしました。子どもたちと一緒に活動することで、人との接し方について学ぶことが多かったです。実際のところ言うことを聞かない子がいて大変はありましたが…。

インターンを始める前より自分は成長したと感じています。

今後について

元々子どもと接することに苦手意識がありましたが、活動を通じて子どもと過ごす時間が楽しく感じるようになりました。この活動での経験を経て、将来は保育士になりたい、と考えるようになりました。

この夢に向かって、今回の活動を通して得たことを活かし、子どもたちからも尊敬される、何でもできるような人になりたいです。



団体紹介

NPO法人 **湘南市民メディアネットワーク**



担当者: **中野 晃太さん**

主に湘南地域を中心に、映像・メディアコンテンツを通して人と人・人と地域をつなげることを目的としています。障がいの有無や年齢を問わず多様な市民や不登校・ひきこもり・貧困等の困難を抱える子ども達も含めた青少年を対象に映像作品の制作ワークショップを行っています。



YAMAGUCHI MOMOKA

山口 桃佳

湘南一ツ星高等学院 2年生

活動中の目標 : インテリアコーディネーターになるため、福祉の分野からの考えを身につける

主な活動内容 : 音声認識機器の実証実験、小学校の福祉の授業でのサポート

参加したきっかけ

前年度のプログラムに参加した先輩たちの体験談を聞きました。その先輩たちはすごく自信に満ち溢れていて、私もこうなりたい!と思い、参加しました。また、約半年間という長い期間でインターン生として社会人に近い立場で物事を考え行動することができる場所に魅力を感じたからです。

成長につながったと思うこと

活動初期は一緒に活動していた大学生と団体どちらにも馴染めず、どう関わっていけばいいのか苦戦しました。ただ、自分なりに考え、自分が今何を頑張ればよいのかを見つけ、取り組むことができました。

活動を通して聴覚障害への知識が深まり、配慮しなければいけない点や多くの課題に気づき、視野を広げることができました。障害を持った方に限らず、友人との話し合いでもこう言ったらこう感じてしまうかなと相手の立場に立って考えて、会話をすることができるようになりました。また、小学校での福祉の授業の際にファシリテーターを担当したときに津金さんに褒めてもらってとても嬉しかったし、自信にもつながりました。

今後について

聴覚障害を持っている方はもちろん日本語が分からない外国の方など、困っている方を手助けできるような人になりたいです。また、私の将来の夢は建築関係の仕事なので全員が楽しく暮らせる住まいづくりに携わっていけるような人になりたいです。そして「この人なら大丈夫」と頼って貰えるような信頼できる人になりたいと思います。



団体紹介

一般社団法人 **4Hearts**



担当者: **津金 愛佳さん**

コミュニケーションの選択肢を増やすことで、聴覚障害や高齢者、外国人等コミュニケーションバリアを抱える人が社会に参加しやすくなります。繋がりをもつ機会を増やし、対等な社会参加を実現するため、体験型ワークショップや研修、講演、音声認識の導入支援コンサルティング等を行っています。



SATO MAI
佐藤 舞

湘南一ツ星高等学院 2年生

活動中の目標 : インターン中に様々な人と話し、その人の考えを知る

主な活動内容 : 朝カフェ・夏祭りのスタッフ、冊子の制作、チラシの作成

参加したきっかけ

基本的に家で活動することが多く、学校にも必要最低限しか行かない状態でした。しかし、このままだと活動範囲が狭く、社会と関わらないまま大人になってしまうと焦りを感じ、自分を変えようと思えました。そんな時に、学校でこのプログラムの説明会がありました。アルバイトよりも日程の調整がしやすく、社会や地域と接点を持つことができるこのプログラムなら、何か成長できるかもしれないと感じ、参加しました。

成長につながったと思うこと

少し興味があったチラシづくりに挑戦しました。実際にパソコンのアプリを使って、次年度のインターンシップ募集のチラシを作成しました。操作に慣れず、最初は苦労しましたが、作業を進めるうちに大分使えるようになり、イメージに近いものをつくることができました。

この活動を通して、「今の自分に出来ることは何か」をよく考えるようになりました。失敗を恐れ、何もしたくないと思っていた半年前に比べると、随分活動的になったと思います。

今後について

今回の活動でチラシづくりや原稿を書くというスキルを得たので、文化祭のパンフレットの作成など、学校行事に活かしていきたいです。また、優タウンでの活動の中で、子どもの相手をするのが得意になったので、学校の子ども食堂のボランティアや地域のちょっとしたイベントなどに参加したいと思っています。



団体紹介

NPO 法人 **優タウン**



担当者: **小沼 陽子**さん

学校に行っても行かなくても、子どもたちに興味のあることを安心して思いっきり学んでもらいたいとの思いから、家庭を起点として地域の色々な所を活用して学ぶ「ホームスクーリング」をしやすいまちを作り、ホームスクーリングの家庭と地域をつなぐ活動を広げています。



FUJII YU
藤井 優

湘南一ツ星高等学院 2年生

活動中の目標 : 自分の意見を外に出す、芯のある人になる

主な活動内容 : フリースペースへの参加、地域食堂の手伝い、イベントスタッフ、チラシデザイン

参加したきっかけ

学校で行われた説明会とこのプログラム OG である友人からの紹介がきっかけでインターン活動に興味を持ち始めました。当時、自分が将来何をしたいのかわからず悩んでいたため、新しいことに挑戦することでなにか得られるものがあるのではないかと思います、このプログラムに参加することを決めました。

成長につながったと思うこと

私はあまり人と関わることが得意ではなかったのですが、活動を通して様々な人とコミュニケーションをとることができました。ときにはうまくいかないこともありましたが、それ以上に周囲の方々に助けられ、ともに協力して物事を成し遂げることの大切さを学びました。

また、活動に参加する前は、自分のネガティブさを欠点としかとらえていませんでした。しかし、活動に参加する中でそのネガティブさを活かして様々な事態を予測して万全な準備をすることができ、欠点は強みにもなりうるということを学びました。

今後について

この活動に参加していなかったら出会えなかった人たちと多く関わることによって、様々な刺激を受けました。今後も自分の環境が変化することで、たくさんの人と関わり、いろいろな価値観に触れる機会が増えていくと思います。その中で新しいものを吸収しつつも自分の意志を持ち、それを周りに伝えられるようになりたいです。



団体紹介

生き×居きコミュニティ



担当者: **増田 康仁**さん

青少年・若者が自分らしく生きる・居られるをテーマに学校・会社・家庭以外で気軽に参加できる居場所・サードスペースを運営しています。20代から40代くらいの方が多く参加しておりボードゲームの会や食事会・ライブイベント等を定期的で開催しています。



HATTORI KANTA
服部 栞大

湘南一ツ星高等学院 2年生

活動中の目標 : 人前に立てるようになること、
 たくさんの人と関わること

主な活動内容 : 草刈り、竹の伐採、チップへの加工

参加したきっかけ

将来のやりたいことが見つからず、進路に悩んでいました。「何かしっかり一つのことに取り組んでみたい!」と思い、学校の先生に相談をしたところ、このプログラムを紹介してもらったことがきっかけです。プログラムの説明会で活動の内容やスケジュールなどの話を聞いて、「ぜひやってみて!」と思い、参加しました。

成長につながったと思うこと

竹を切ることや、草刈り機で雑草を刈ることなど、初めての体験をたくさんすることができました。活動を通して、自分と年代の違う方と話すことができました。特に、自分の好きなバイクの話で盛り上がったのは良い思い出です。

どうすれば上手に話ができるか、相手に伝えられるかを意識して活動に臨んでいたため、藤沢サンクチュアリでの日々の活動や、月に1度の定例会など、人前で話す機会を通じて、自分の成長を実感することができました。

今後について

藤沢サンクチュアリでの活動で得た知見を活かして、将来、自然や食べ物に関わる仕事がしたいです。そして、常に新しい視点を持って、自分らしく楽しく過ごしたいと思っています。



団体紹介

NPO 法人 **藤沢サンクチュアリ**



担当者: **高橋 和也**さん

遠藤地区(健康の森)を中心とした藤沢市内の緑地で、ササ狩りや竹の伐採、危険木の処理を行って、子ども達が自由に遊べる里山・虫取りや魚取りが自由にできる里山を目指しています。自然の中での遊びを通じて、大人と子どもが交流する藤沢の谷戸で、未来の子どもたちに自然を残す活動をしています。



MASUDA KENTA
増田 健太

東海大学 4年生

活動中の目標 : 何事にも挑戦する

主な活動内容 : 広町緑地の管理、イベントの運営

参加したきっかけ

大学卒業までの半年間、時間があったため、何か活動したいと思っていたところ、大学のゼミの先生にこのプログラムを紹介してもらいました。自分の性格上、色々なことに興味・関心を持っているので、このインターン活動で何か一つの物事に取り組んで挑戦したいと思い、参加を決めました。

成長につながったと思うこと

インターン開始時に「何事にも挑戦する」という目標を立てていました。鎌倉広町の森市民の会での活動は、木の伐採や、かかしの補強など、これまで経験したことがないことばかりでした。苦手だった虫がどんどん苦手に…という大変な思い出もありましたが、新しい環境に臆せずに挑戦することができたという点で、当初の目標を達成し、成長できたと感じています。

今後について

今回、色々な世代の方と接する中で、傾聴することの大切さを学びました。元々、話すことは得意な方でしたが、どうすれば相手との会話が弾み、話しやすいと感じてもらえるかを意識するようになりました。

ここで学んだコミュニケーション力を活かして、将来、多言語を習得して海外で生活をしたいと考えています。



団体紹介

認定 NPO 法人 **鎌倉広町の森市民の会**



担当者: **粕谷 史朗**さん

鎌倉市の南西部に広がる貴重な里山・里地の保全・発展を、地域住民の皆様と一緒に進めています。畑・田んぼ・森とフィールドは様々で、珍しい動植物の定期的な観察も行なっています。また、毎月、自然を活かした様々なイベントも実施しており、1年を通してその自然を体感できます。

本ページでは、成果発表会までの事前準備の様子や当日の発表の様子を紹介します。成果発表会は、ワカモノの活動の成果を発表する会として実施し、ワカモノたちが企画・運営をしています。

事前準備の様子



11月頃から、定例会の後やオンラインミーティングなどで、どんな発表会にするか何度も話し合いました。広報や装飾、司会など、役割分担を決定し、準備を進めていきます。



発表で使用するスライドの作成や、当日の運営に必要な掲示物や書類の印刷、会場レイアウトの確認などを行いました。



いよいよ明日が成果発表会の本番。備品の整理や司会台本の最終確認などを行い、作業は大詰めを迎えます。限られた時間の中で最善を尽くし、ワカモノ全員で協力し合うことができました。



より多くの方に来場してもらうためにチラシを作成して広報活動を行いました。今年は、ワカモノ9名の活動の様子が見える写真を掲載し、あたたかみのあるチラシが完成しました。



本番まで残り1ヶ月を切り、企画がまとまってきた段階で、最終確認として本番と同じ会場で行いました。発表会当日の流れを確認し、準備が足りない部分を洗い出します。交流会として実施したビンゴも、ワカモノ皆でアイデアを出し合い、企画を行いました。



ワカモノ一人ひとりが活動内容や活動を通じて感じたことなどを発表し、成長した姿を披露しました。交流会ではご来場いただいた皆さまにも楽しんでいただけました。

当日の様子



朝の打合せ&移動

当日の朝早くに市民活動推進センターに集まり、司会台本の読み合わせや、役割ごとの動きの確認など、本番前最後の打合せを行いました。その後、荷物を持って、会場となる湘南一ツ星高等学院へ移動しました。



会場準備

椅子や機材など会場のセッティングをしたり、来場者の皆さまに楽しく過ごしてもらえるように装飾をしたりなど、本番に向けて準備を行いました。



発表会本番

ついに本番！多くの来場者の前で行われた発表は、緊張している様子もありつつ、各自の約半年間の学びを堂々と発表している姿が印象的でした。最後には受入担当者の方からも感想をいただきました。



交流会

発表会の後、交流会を行いました。交流会ではワカモノ自作のビンゴゲームも実施して来場者の皆さまとワカモノ、サポメン、事務局も一緒に自由に交流しました。



来賓挨拶・理事長挨拶

交流会の後、本プログラム主催の認定NPO法人藤沢市民活動推進機構の手塚理事長から「団体と学生とが一同に集う場は珍しく、これこそがこのプログラムの特徴です。今日までの活動で得た力をまたどこかで発揮してもらえたら嬉しいです。」とコメントがあり、その後ワカモノ一人ひとりに修了証が渡されました。

企画運営をしたワカモノたちの声

- 当初立てた目標が大きいものでむずかしかったですが、意見交換や準備の時間を通して成長できました。
- 楽しかったことは成果発表会の準備で初めて大学生の増田くんと話せたことです。

アンケート結果

本ページでは、アンケート結果を一部紹介します。プログラムの改善とワカモノの成長や目標達成率を確認するため、活動終了後にワカモノ9名、受入団体の担当者9名にアンケートを実施しました。記述回答につきましては一部加筆・修正をしています。

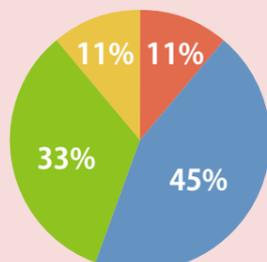
※回収率 100%。全体数は、ワカモノが n=9、受入団体が n=9。

平均
77.5%

インターンの目標達成率

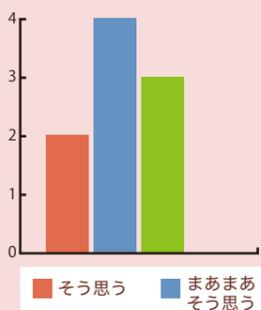
- 80%** 目標の規模が大きく、すぐに達成出来るものではないが、活動先で意見交換をしたり、本を読むようになり、半年前に想像していたことは達成できたと思ったから。
- 75%** 活動内容は当初想像していたものと異なっていたが、自分のできることを最大限取り組むことができたから。
- 70%** 自分は「人前に立てるようになること」と「たくさんの人と関わること」を目標にしていたが、活動前と比較して前者は目標を達成できたものの、後者は達成には至らなかったため、70%です！！

活動中の悩みや困りごとを相談できましたか。また、どんな悩みがありましたか。

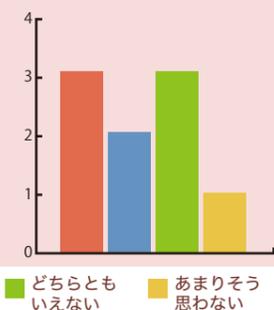


- まったく活動の無い期間が2ヶ月ほどあったこと。大学生との活動でわたしがやりたかったことができなかったこと。
- 年齢や性別が違う人たちとコミュニケーションをとるという活動が自分に合っていないように感じた。
- (活動場所が) 家から遠いこと。

「NPO」や「市民活動」について自分自身の言葉で説明できる



インターン活動終了後も団体の活動に関わりたい



ワカモノのNPOへの理解と関心

- 定例会や活動の中でこれらの項目に該当することについて説明する機会がいくつかあり、その時、他者にしっかり説明できたと思ったため。
- 実際に活動をしてみて、このような団体が行動しているからこそ少しずつ世の中がよい方向に進んでいくんだろうと感じたからです。今後も活動団体と関わっていきたくて深く思いました。

インターン活動の期間の長さ(約8ヶ月)はいかがでしたか



活動時間 60～100時間(高校生は50～80時間)はいかがでしたか



インターン活動期間・時間の長さ

- 思ったよりも8ヶ月間という期間を短く感じたから。
- インターン生の希望で長くできるなら、そういう制度設計もありと思うから。

受入を通じて、団体にどのような変化がありましたか。

- 今まで社会人のプロボノ※を受け入れることが多かったため、初めはワカモノと一緒に活動することに戸惑いがありました。(ワカモノ側も戸惑っていたはずです。)まずは、単純作業などで会話をしながらお互いを知る時間が必要だったと反省をしています。今後のボランティアやインターンの受入やワカモノ世代の受け入れ方、また、個々の潜在能力の引き出し方、伸ばし方など自団体にとってとても学びが多かったと思います。
- インターン生の成長をスタッフみんなで支えていく雰囲気ができました。
- 非常に活気が出て、スタッフ、ボランティアさんの雰囲気が明るくなった。来園者に伝わりやすい資料を作ってくれたり、若い世代の視点で業務を改善してくれた。

ワカモノにどのような変化があったか

- 発表会の話し方が上手で伝わりやすかった。元々声が小さかったのが気になっていたが、聞き取りやすい声で話していた。積極的に色々な事にチャレンジしたい気持ちやスルーする事も含めて決断する力を養えたような実感。自身の気持ちを伝えたりすることに苦手意識もある印象だがじっくり時間をかけて自身と向き合えた印象も受けた。
- ワカモノが自信を持って、自分らしく活動できるようになりました。そしてワカモノ自身が、これから改善していきたい点も活動記録票にて文字で表現できるようになりました。今後さらに成長する姿が楽しみです！

印象に残ったことなど

- 若い方の活動への参加、外部人材の参加と理解は、従来からのメンバーの活動スタイルの変化のきっかけになっているように感じられ、良い体験と思いました。
- 若いうちから社会課題やその課題解決の為に頑張っている人や団体があることを知ることができると、体験できるプログラムは素晴らしいと思います。ワカモノが成長する姿を間近で見られること、その成長に寄与できることは私たち大人には良い刺激であり、とても大切な学びとなりました。

※プロボノとは「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」が語源で、仕事で培ったスキルや経験を活かす社会貢献活動のことを指します。(日本財団公式 web サイト「日本財団ジャーナル」より抜粋 https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2024/101178/social_contributions)

本ページでは、プログラムに参加をしたワカモノたちが通う学校の先生方からいただいたメッセージをご紹介します。

インターンシップでの経験と成長



東海大学 政治経済学部
政治学科 教授
前田 成東 様

私のゼミに所属する学生が今までに4名「ワカモノ×NPOインターンシッププログラム」に参加し、そのうち1名はその後サポメンとして関わっているため、この数年「活動報告書」を拝見し、成果発表会にも何度か出席いたしました。

このプログラムの魅力は、多くの学生・生徒が関わったことがあると思われるボランティアからさらに一歩進み、長期間にわたって受入団体の皆さまとの緊密な調整のもと、ワカモノが主体性をもって活動に“参画”することにあると考えています。地域には実に多くの活動団体が存在し、そこでは多世代かつ様々なバックグラウンドをお持ちの方々が集っています。その活動を肌で感じ、地域の課題を再認識することは、通常の授業ではできないことです。活動の中では、指示を待って行動するだけでなく、意見を求められたり、自ら進んで提案をしたりということがあったかもしれません。それは貴重な経験です。

成果発表会でのプレゼンテーションを拝聴していると、実に手際よくポイントを明確に説明していることが実感できます。また、ワカモノ定例会を積み重ねることで他のメンバーの活動についても理解が深まったと思います。活動の開始当初には戸惑うことが多かったと推察しますが、終了時には参加者の皆さんに“大きな財産”が付加されています。それを「成長」という2文字で表現するのは簡単ですが、誰にでも得られることではありません。今後も可能な限り地域活動に目を向けて、無理のない範囲で関わっていただきたいと思います。

地域での出会いがワカモノの成長につながる



湘南一ツ星高等学院
学院長補佐
新田 里奈 様

高校生という多感な時期に地域に出て、様々な人と出会い、交流することは大切なことであると考えており、本校では、地域の方と交流する機会を多く取り入れています。本校の学生は「今の自分から変わりたいけど、頑張り方がわからない」「行動したいけどできない」などの悩みを抱えていることが多いように感じます。このプログラムに参加し始めたころは戸惑い、悩みながら活動していますが、終わるころには別人ではないか、と思うくらい大きく成長した姿を見せてくれます。

学生たちは現場に入って活動することで、様々な経験をすることができます。中には役割を与えていただき、受入団体の方々と相談しながら試行錯誤を繰り返し「自分でも挑戦すればできることがある」という経験をする中で自己肯定感が上がるのだと思います。また、活動を通じて地域の中で多くの人に関わり合っているということ、身をもって知ることができ、人生のロールモデルを見つけたり、また社会性を身に付けたり

することができています。これは長期の活動だからこそ得られることだと思います。

教員として、学生たちにはたくさんいい出会いや経験をしてほしいと思いつつも、学内でできることに限界を感じていました。学校を飛び出し、地域で活動することが彼らの成長に間違いなくつながります。また、真摯に向き合ってください受入団体の皆さまや事務局、サポートメンバーが学生たちの活動をサポートするという手厚いフォロー体制があるため、教員としても安心して学生たちを送り出すことができます。

2024年度のインターンシップ事業の成果発表会が、2月22日にとある高等学校の校舎の中で開催されました。今年度は、高校生（8名）と大学生（1名）合わせて9名のワカモノが成果を発表しました。受入団体は、藤沢市・茅ヶ崎市・鎌倉市で活動している9団体にお願ひし、それぞれ独自のプログラム事業の中で活動していただきました。団体の活動テーマは、まちづくり・障がい者支援・映像メディア関係・自然環境保全・生活経済支援・音楽活動など、多様な活動が並び、ワカモノの希望を最優先にマッチングを行いました。高校生の多かった今年度の活動テーマは、エントリーしたワカモノの将来の夢や希望を軸に「自分史上最高の何かを見つける」とし、約半年のインターン期間で、見つけてほしいと願ひを込めて、送り出したのが7月です。

プログラム終盤の2月になり、さて、何を見つけてくれたのか大変しみな成果発表会を迎え、受入団体の皆さんや、関係する教育機関の皆さんが見守る中で、ワカモノの発表が始まりました。すっかり団体の一員となり、定期イベントを企画した者、苦手だった子どもとふれあい、将来のお仕事への意識が変化した者、将来の夢である学芸員の職について理解を深めた者、得意なことをしっかり全うした者、自身の経験を活動に活かした者、いつの間にか助っ人として常に気を配っていた者など、皆何かしら、始める前との変化を身に着けていたように見て取れました。きっと自分史上最高の何かを見つけたのだと確信できた瞬間でした。

また、本プログラムの特徴として、サポートメンバーの活躍も見逃すことはできません。過去のインターン経験者の希望者で構成していますが、本年度は5期生から9期生まで、7名が陰となり日向となり、ワカモノや事務局を支えてきました。その様子を見て、感じていたワカモノの中から、次年度のサポートメンバーに手が挙がったことも、大きな成果と言えるのではないのでしょうか。

本プログラムも開始から11年が経過し、当初の目標であった人材育成の10年プランの成果を検証する時期が来ています。初期のメンバーは、30歳代になり社会の一員として、活躍している姿を時々見せてくれるようになってきました。就職先として経済界の中間支援組織を選んだ者、東北出身者でUターンして就職した者、卒業と同時に青年海外協力隊員となった者、NPOやNGOに就職した者、進学先を海外に変更した者、地域に密着した就業についた者など、生き抜く力を自らの判断で選び始めた傾向を多く見ることができていることに加え、現状の様子を見せてくれることも少なくありません。これらの成果を少しずつ現代のワカモノに伝えていこうと次年度以降のプログラムに盛り込む構想を練っています。留まることのないプログラムにこれからもご期待ください。

最後になりますが、本年度も関係者の皆さまには大変お世話になりました。引き続きのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構
理事長

手塚 明美 AKEMI TEDUKA



協力者一覧

助 成 公益財団法人アイネット地域振興財団

協 力 藤沢市市民活動推進センター・市民活動プラザむつあい

受入団体 認定 NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎 NPO 法人 優タウン
NPO 法人 湘南 FP 相談室 生き × 居きコミュニティ
おととき♪ NPO 法人 藤沢サンクチュアリ
NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク 認定 NPO 法人 鎌倉広町の森市民の会
一般社団法人 4Hearts

広報協力 東海大学 前田 成東先生/東海大学 藤巻 裕之先生/神奈川大学 山岡 義卓先生/
日本大学 新町 文絵先生・炭山 大輔先生/湘南一ツ星高等学院 新田 里奈先生/
湘南学園中学校・高等学校 吉川 謙太郎先生

プログラムの最新情報は下記からご覧ください。
2025 年度の情報もお知らせいたします！

ホームページ



Instagram



X



地域でつながるワカモノ × NPO インターンシッププログラム 2024 活動報告書

発 行： 2025 年 4 月

編集責任： 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 理事長 手塚 明美

事業担当： 永山 愛 / 佐久間 恭子

制作協力： 金子 知史 (進行管理) / 山本 千晴 (原稿執筆) / 中村 渚 (原稿執筆) / 相原 美月 (写真選定) /
酒井 彩良 (写真選定・デザイン) / 小島 奈々 (表紙・写真選定・デザイン) / 森田 哲平 (デザイン) /
森田 美都 (デザイン) / 矢倉 社 (企画補助) / 堀 千鶴 / 桜井 光 / 榮 久美子 /
高木 さとみ / 鈴木 理恵

発 行 所： 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室
電話：0466-53-7366 ホームページ：<https://f-npocafe.or.jp> メール：npoipg@f-npon.jp

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。商業目的による本書情報の利用を禁じます。

